

社会 第5学年 工業生産とわたしたちの暮らし 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「これからの工業には、使う人と作る人の両方から何が求められるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。(3)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：安全、環境、使いやすさ、生産の継続に関わる製品改良の事例を調べる。消費者・働く人・企業の立場で利点と必要な条件を整理し、これから大切にしたい取組を根拠付きで選ぶ。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(3)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：便利ならよいという主張には製造費用や資源、使えない人の立場も資料から考える。技術だけですべて解決すると断定せず、協力や制度の条件を残す 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(3)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。生産者の工夫と困難を整理する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：企業の広告表現をそのまま評価語にしない。現状の数値は年・単位・対象を付けて扱う 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(3)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：安全、環境、使いやすさ、生産の継続に関わる製品改良の事例を調べる。消費者・働く人・企業の立場で利点と必要な条件を整理し、これから大切にしたい取組を根拠付きで選ぶ。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全5時間は日本文教出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「これからの工業には、使う人と作る人の両方から何が求められるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「これからの工業には、使う人と作る人の両方から何が求められるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。工業の発展について自分の考えを述べる活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

